

NO WAR!

ロシアは今すぐウクライナ攻撃をやめて!

戦車、爆撃、壊れた建物や運び出されるけが人街を出るバスや列車に集まる多くの人。地下鉄に避難する家族…。なんとということが起こるのか、という驚き、怒りと、これが戦争なんだという現実を目の当たりにしています。

◎戦争とは…その本質

今も昔もはつきりしているのは、戦争で犠牲になるのは戦争なんかしたくない普通の人々、子どもたち。なぜ何もしないのに命を狙われ、家を出て逃げなければならぬのか、寒い地下鉄の

◎全教豊中はどのようなように考えるか

今、ロシアに味方する国は少ないですが、大国も小さい国も様々な意思をもっています。外交や国際政治についてはいろいろな考え方があり、しかし、いかなる理由を述べようと「武力戦争NO」。他国への侵略・支配

NO1
このことを全教豊中はおおきな声で発信します。

◎私たちが「できる」と

日本で、悲惨なニュースの後にのんきな番組が流れ、こんなこととしていいのかと思われる方は私だけではないでしょう。国内では戦争NOの行動も起こっています。そのなか、私たちに何ができるか考えました。

知ること↓在日ウクライナの方が「知ってほしい」。気にしてほしい」と訴えています。知り考えることが第一歩です。平和教育をたいせつに子どもたちは「そんな戦争やめたらいいのに」とすなおに考えます。今起こっているウクライナの現実が『ひとつの花』でゆみこを置いて戦争に

行くおとうさんの姿です。今は教科書に載っていませんが、民家への爆撃が『おこりじぞう(山口勇子・作)』の傷ついた子ども、怒るお地蔵さんと重なって見えます。

授業で学び考えた戦争の現実、「昔日本も戦争をしていたんだよ」という先生の言葉が「平和がいい」と思う子どもたちの心を育てます。「戦争はあかん」ということを伝え続け、平和を愛すること子どもたちを育てることが私たち教職員にはできます。ウクライナのことを教室や職員室で話題にして、「平和」への思いを共有しましょう。

◎平和憲法を大切にしよう

「ウクライナは核兵器がないからロシアに脅される。日本も核を持たなければなら隣国に攻められるぞ」という意見をネット上で見ました。「経済制裁だけでは弱い。アメリカがロシアを攻撃せよ」の意見があることも承知

しています。そうでしょうか。

第二次大戦後、「核の抑止力」を大義名分に恐ろしい数の核兵器が作られました。今、ロシアはその核兵器を脅しに使っています。互いにけん制し合わない国交は維持できないのでしょうか。

日本は「ヒロシマ・ナガサキ」を経て、「戦争放棄」を掲げた日本国憲法を持っています。「うちは戦争しない」と言い切りその姿勢を他国に示すことが、これからの世界のあり方の指針となると考えます。「自国さえよかつたらいい」という考えではありません。憲法前文に「平和を維持し：(中略)国際社会において名譽ある地位を占めんと思ふ」とあります。

教え子を再び戦場に送るな!



日本国憲法は決して時代遅れでなく全人類普遍的なものと考えます。

◎教職員組合が「教え子を再び戦場に送らないうい」と言い続けている意義

今、日本では自由に「ウクライナ侵略NO」の声をあげることができません。しかし、ロシア国内では違います。最近では香港やミャンマーでも国の政策に異議を唱えようと警察につかまる事態が起こっています。

日本もそれと同じ歴史を持ちます。戦争に反対すると治安維持法という法律により捕らえられました。そのため、学校の先生方は「戦争反対」と

言えず「戦争でがんばってこい」と心で泣きながらクラスの生徒たちを戦地に送り出しました。

戦後、そのつらい気持ちを表した言葉が「教え子を再び戦場に送らない」という教職員組合の合言葉です。「言いたいことを自由に言える」ことが「民主主義」です。「民主主義」と「平和」がいつも同じステージで語られるのはこういうことでしょう。

「教え子を再び戦場に送らない」この言葉を今ほとんど大切にしなければと思っています。

(書記次長 藤木桂子)



つなつなの世界ちよつと見て歩き 番外編

ウクライナはとてもすてきな国だ。

安くて美味しい食べ物(ボルシチはウクライナ発祥)、美しい建築物、親切な人々……。どれも2019年に私が現地を訪れたときの印象だ。

街の中心部は美しい建物であふれている。大聖堂や修道院、風格を感じさせる庁舎などもたくさんある。地下鉄にはその一つ一つに美術館のような装飾が施されていて、「地下鉄めぐり」なんて楽しみ方をする人もいるくらいだ。

旧ソ連の国々の地下鉄は、どこもとても深く、深い所を走っている。キエフ市内ももちろん。ホームに行くにはエスカレーターに乗るのだが、これがまあ長いこと長いこと地下数十mに向かつて一

直線に伸びていて、終わりが全く見えない。その上、かなりのスピードで動いているのに何分たつても一向に着かないのだ。高所恐怖症でなくともお尻がゾワゾワする。

地下深くに作られている理由は報道されている通り、シェルターとなっているからだ。大戦や米ソ冷戦時代の遺物が、この21世紀に本当に避難施設として機能しているのを見るときはまさか思わなかった。砲煙を逃れ避難している人々の映像を見ると、どうしようもなく胸が痛む。

一方、デモ行為が厳しく取り締まられるロシアでは、拘束されるのが分かっていても人々が声を上げ続けている。多くの口

シア人が今回の侵略に異を唱えていることがささやかな希望である。

一刻も早くこのばかげた戦争が終わり、ウクライナの人々に笑顔が戻ることを願ってやまない。

執行委員 綱島 典子

